

保存版特集 西洋名画を読み解く

ikkoin

12 DEC. 2009  
No.115  
定価 680円

個

人

〔保存版特集〕

# 西洋名画を 読み解く

レオナルド・ダ・ヴィンチ  
全作品に隠された暗号を解く

ヴィーナス、アルテミス、ヘレネ、  
プシケ、パンドラ

ギリシア神話の5大美女で  
読む西洋名画

キリストの生涯を知れば  
西洋絵画は100倍面白い

決定!  
2010  
年度

「2000円以下」極旨ワイン大賞  
トップソムリエ6人がぶどう品種別に  
ブライントテイステイング

驚異的な速さで進化するニューワールドワインの筆頭

本場ブルゴーニュに迫り、世界中が注目する

# オレゴン、ピノ・ノワールの実力

オレゴン州の気候は一年を通じて涼やかで、冬は涼しく多湿、夏は暖かく乾燥している。

## ピノ・ノワール

*Pinot Noir*  
栽培地の選り好みか激しいのがピノ・ノワールの特徴。栽培地にピッタリと嵌まると華やかさでは比類のないワインとなる。人もまたピノ・ノワールの魅力に嵌まると抜けださせなくなる。



ワインにはまった人は、  
“最終的にピノ・ノワールにいきつく”  
という「定説」がある。  
パリで開催された品評会で  
本場ブルゴーニュを凌ぐ  
評価をされたオレゴン「ピノ・ノワール」は  
今、世界中で注目され始めている。

監修 石井もと子(バイシス) 文/清水英子



## オレゴン Oregon, USA

アメリカ合衆国北西部の州。オレゴンを代表するワイン産地ウイラメット・ヴァレーとブルゴーニュはほぼ同緯度。ウイラメット・ヴァレーはAVA（政府認証産地）でその内部には7つのサブ・AVAがある。

## ピノ・ノワールこそが大人のワインと呼べる

ここ10年ほど、ワインは産地ではなくカベルネ・ソーヴィニヨンやメルロ、シヤルドネのように品種を走るのがトレンドになっている。「カベルネならチリ・カベ（チリのカベルネ）だよ」「いや、時代はもうアルゼンチンだ」「なんといつてもボルドーだ」という風に。

だがこれはまだワインピキナーの段階だ。香りも味わいも強いカベルネやメルロはピキナーでも味わいの違いがわかりやすく受け入れやすい品種だ。対している飲み込んできて初めてその良さがわかる品種がある。いわば普通のワイン、大人のワインといえるのが、繊細にして芳醇なピノ・ノワールだ。

ピノ・ノワールの故郷はブルゴーニュ。ロマネ・コンテイ、シャンベルタンといった銘酒となるのがピノ・ノワールで「ワインの王様」とも呼ばれる。また「気むすかし屋」とも呼ばれる。同じブルゴーニュを故郷とするシヤルドネやボルド

## IPNC インターナショナル・ ピノ・ノワール・ セレブレーション

1985年から毎年7月後半にウイラメット・ヴァレーのマクミンヴィルで開催される世界的なピノ・ノワールの祭典がIPNC。オレゴンの生産者30社、ブルゴーニュやニュージーランドなど州外30社の計60社が参加し、世界中のピノ・ノワール愛好家が集まる。2日半に及びワイナリー・ツアー、試飲会、食事会が繰り広げられ、世界中のピノ・ノワールを飲みつくす。

IPNCインフォメーション  
<http://www.ipnc.org/>



上) 全米から20名を超えるヴォランティア・ソムリアが集まりワインをサービスする。左) 土曜のディナーはIPNC名物のサーモン・ベイク、インディアン流の焼き方だ。右) 参加者数は700名、2日半で7000本を超えるワインが開けられる。



### ドメーヌ・ドルーアン オレゴン

*Domaine Drouhin Oregon*

ブルゴーニュの名門ドルーアン社の姉妹ワイナリー。率いるのはドルーアン家の長女ヴェロニク。チャーミングでありながら底力からあるワインをつくる。



### クリストム ヴィンヤーズ

*Cristom Vineyards*

エオラ・アミティ・ヒルズにあるオレゴンのトップ・ワイナリーの一つ。醸造家スティヴ・ドナーの手腕は高く、常に豊富なピノ・ノワールをつくる。

ーを故郷とするカベルネは環境に順応しやすい品種で、ニューワールド各国はもとより固有種で素晴らしいワインを造るイタリアやスペインなどでも上質なワインが造られている。

対してピノ・ノワールが本領を發揮する栽培環境は極狭い範囲に限られる。気温がちよっと高かったり土壌が豊かすぎたりすると、ピノ・ノワール特有の華やかで上品な風味はでてこない。少しでも環境が気に入らないと野放図で野蛮なワインあるいは青臭い酸の強いワインとなってしまう。気むずかし屋と呼ばれる所だ。

ブルゴーニュ以外で飲むに値する上質なピノ・ノワールができるワイン産地はごく限られている。アメリカはオレゴン州のウイラメット・ヴァレーとカリフォルニア州沿岸部の極狭い範囲、そしてニュージーランド、オーストラリアのタス

マニア島とモーニントン半島、チリは今ピノ・ノワールに真剣に取り組み出したところで結果はこれから、といったところなのだ。

なかでもオレゴンとニュージーランドはブルゴーニュの生産者も認めるピノ・ノワールの産地だ。ニュージーランドのピノ・ノワールはピュアな果実味が特徴で、オレゴンのピノ・ノワールは果実味に加え複雑味がある。グラフの横軸の右端に複雑味を、左端に果実味を置いて、産地を当てはめていくと、ブルゴーニュが右側に、真中にオレゴンが、ニュージーランドが左側に位置する。

ブルゴーニュのピノ・ノワールは味わいが内にこもり繊細であるがゆえにその複雑な味わいがワイン初心者には理解できず、舌に感じる酸味だけを捉えられ「酸っぱい」と敬遠されてしまう。ワインを飲みなれてくるとこの酸味がエレガントさにつながるのだと解ってくるのだが、そこに至るまでにはとにかくピノ・ノワールを飲むことだ。まずは果実味もあって飲みやすく複雑味も併せ持つオレゴンから始めるのがお薦め。ピノ・ノワールを理解する早道だ。

オレゴン州北西部に位置するウイラメット・ヴァレーが、その中でも谷の西側を縁取る海岸山地のすそ野とその周辺に散在する小高い丘がピノ・ノワールにとっての天国だ。ウイラメット・ヴァレーの北部とブルゴーニュはほぼ同じ北緯にある。気候もウイラメット・ヴァレーの冬はブルゴーニュよりやや暖かいが、夏

ボー・フレール ピノ・ノワール  
ボー・フレール ヴィンヤード2007

*Beaux Frères Pinot Noir  
Beaux Frères Vineyard 2007*

かのワイン評論の大家ロバート・パーカー夫妻と妹夫妻がオーナーのワイナリー。パーカーの義弟が醸造家で実に気品ある壮麗なピノ・ノワールをつくる。有機肥料で育てた牛の糞や有機栽培の穀類の糞を使い堆肥を作るなどバイオダイナミ農法を実践する自社畑産のワイン。様々なワイン雑誌で高く評価されているがパーカーはノー・コメントを通して。

関中川ワイン販売 ☎03-3631-7979



キングス・リッジ ピノ・ノワール2007

*Kings Ridge Pinot Noir 2007*

創立5年目の若いワイナリー。通のためではなく誰もが美味しいと喜んで飲んでくれるピノ・ノワールをリーズナブルな価格で造ろうとチャレンジ、それが成功し生産量をぐんぐん伸ばしている。フランボワーズやチェリーなど果実味の生き生きした実にチャミングなワイン。ワインビギナーも「美味しい!」と飲んでいて楽しくなるピノ・ノワールだ。

関中川ワイン販売 ☎03-3631-7979

クリストム ピノ・ノワール  
マウント・ジェファーソン・キュヴェ2007

*Cristom Pinot Noir  
Mt. Jefferson Cuvée 2007*

豊潤さにおいて群を抜くのがクリストム。滑らかに濃く緻密な味わいは醸造家スティーヴ・ドナーのスタイルともいべきクリストム独自の個性で、カベルネやメルロー辺りのワイン愛好家もクリストムのピノ・ノワールは高く評価する。ワイナリーから望むジェファーソン山の名を冠したこのワインは自社畑と厳選した購入ブドウからつくる。より精緻で豊かな味わいを求めるなら自社畑の区画名入りワインがある。関中川ワイン販売 ☎03-3631-7979



# 今、飲むべきオレゴン、ピノ・ノワール Best 5

他の追随を許さない圧倒的に高いコストパフォーマンスに驚かされるワイン愛好家が急増する代表的な5本

ドメヌ・ドルーアン オレゴン  
オレゴン ピノ・ノワール2006

*Domaine Drouhin Oregon  
Oregon Pinot Noir 2006*

ドルーアン・オレゴンはオレゴン・ピノ・ノワール発祥の地に36ヘクタールの畑を所有、その傍らに重力移動方式を採用したワイナリーが立つ。醸造責任者のヴェロニクは、オレゴンのピノ・ノワールの熟した果実味とブルゴーニュのエレガントさが共存する優雅な味わいをつくりだした。そのワインは世界中で高い評価を得ている。

関三国ワイン ☎03-5542-3939



ドメヌ・ドルーアン オレゴン  
オレゴン ピノ・ノワール  
"ロレーヌ"2005

*Domaine Drouhin Oregon  
Oregon Pinot Noir  
'Laurene' 2005*

ロレーヌはドルーアン家の4代目となるヴェロニクの長女の名でドルーアン・オレゴンのフラッグ・シップ・ワイン。フレンチ・オーク樽で熟成中の自社畑ピノ・ノワールの中から最上のもだけを選びだしロレーヌとする。若いうちは一見細身だが熟成後は実に豪華なブケと絹のように滑らかな味わいで飲み手を魅了する。

関三国ワイン ☎03-5542-3939

の過激な暑さのない温暖な気候はほぼ同じだ。やせた土壌も然り。それ故にピノ・ノワールはウイラメット・ヴァレーで伸び伸びと育ち華やかな香りをもった芳醇なワインとなる。逆にいえばウイラメット・ヴァレーは涼しすぎてカベルネやメルローには向かない。オレゴン初のピノ・ノワールが植えられたのは1965年のこと。それはオレゴンに本格的なワイン産業が芽生えた最初の年でもあり、オレゴンのワイン産業はいまだ40数年の歴史しかない。だがワイナリー数はすでに400近く、ブドウの栽培面積は78万畝を超え、その6割近くをピノ・ノワールが占めている。

1979年にパリで開かれたゴミョ誌主催のプラインド・テイステンクでブルゴーニュの銘酒を押しつけオレゴンのピノ・ノワールが上位に入り、以来オレゴンのピノ・ノワールは広く世界で認められるようになった。87年にはオレゴンの可能性を高くかつたブルゴーニュの名門メゾン・ジョゼフ・ドルーアン社がダンディ・ヒルズにドメヌ・ドルーアン・オレゴンを創立、オレゴンのワインはより広く知られるようになった。ブルゴーニュの白ワイン造りでは第一人者の一人コント・ラフォンのドミニク・ラフォンも一昨年からコンサルタントとしてエオラ・アミティ・ヒルズでワインを造る。オレゴンのピノ・ノワールはまだまだ成長期でどんな大輪の花となるのか、オレゴン・ピノ・ノワールを飲みながらその成長過程を追うのも面白い。